

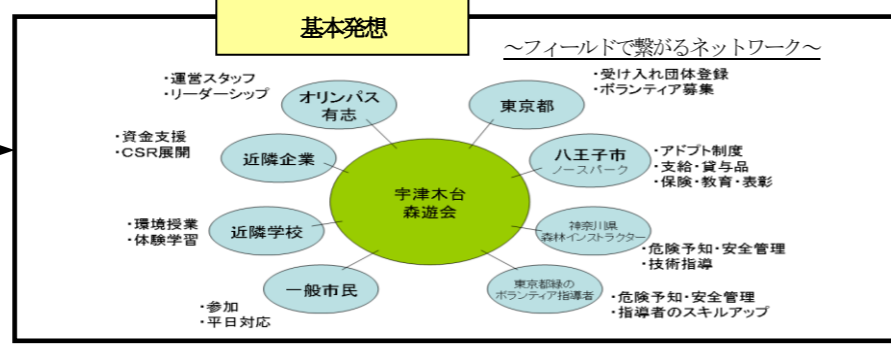
基本方針

ビジョン

- 地域社会に愛される森をつくる
- 生物多様で健全な森を再生することにより、学校教育の場、住民の憩いの場を提供し地域社会に貢献する。

ポリシー

- 法令を順守、行政・管理会社等との連携を活発に行う。
- 安全管理（危険予知・管理・指導等）を最優先とする。
- 参加者のレベルに合わせた楽しく継続可能な活動を行う。



再生計画

目標

1年後

- 活動基盤の確立とフィールド全体状況の把握がされている

3年後

- 自治体、小学校、近隣企業等に利用をアピールできている

5年後

- 客観的評価（外部団体など）がされ市から評価されている

達成のシナリオ

月一回、年間12回の活動を通して、調査と整備活動をバランス良く行う。また、参加者を飽きさせない様々なアクティビティを実施する。

活動バランスのイメージ

補足：整備作業は効果が直ぐに見えるため達成感があり人気がある。一方、調査は手間と時間がかかり退屈な面がある、調査だけをやりたい者もいる。開始当初の調査は重要であるが徐々に減らしてゆき、エキスパートに任せるようにしてゆく。

宇津木台 森遊会 を取り巻く動向と課題

世間動向

3年以内

- 森のCO₂オフセットとしての価値が定着する
- 企業のCSRとしての森づくりが必須となる
- 生物多様性の理解が深まり可視化、具体化する
- 森で過ごす、散歩する習慣が定着する
- 野外での環境授業が指導要綱で必須となる

5年以内

- 企業の森づくりへの評価が激しくなる（従業員自ら活動しているか？等）
- 精神疾患療法としての森林セラピーが確立する
- 森の客観的資産価値を評価する手法が確立する

10年以内

- 森づくりは企業存続の必須条件となる
- 森の自由な売買の制限、課税制度が整う

フィールド分析

外部から

- 敷地境界線が明確でしっかりしている
- 保安林などの伐採に関する規制は無い
- 周囲に民家が無いため騒音の心配は無い
- 夜は人気が無く、防犯上の問題がある
- ゴミが不法投棄される可能性がある
- 高圧線や公的施設等の建築物は無い
- 上空は横田基地の航路となっている
- 雪は少ない、気温は夏暑く、冬は寒い
- 多摩川からの強い北風が吹きつける
- トイレ、水、電気などは一切無い
- オリンパスにトイレ、水、電気はある
- オリンパスに駐車場、駐輪場はある
- 散歩する市民は極めて少ない

内部から

- 林内全域で地表が暗く、笹が生い茂っている
- 樹木の密度が高い、枯れ木が多々ある
- 植生（種類）が極めて貧弱
- 僅かながら竹林があり手入れはされていない
- ところどころに広場がある
- 岩盤の割れ目からの湧水、水辺がある
- 水辺の谷を中心に崩落部分がある
- 野鳥、蝶類が少ない（調査する必要あり）
- 昆虫類が少ない（調査する必要あり）
- 陸生のホタルがいるという噂がある
- ヤマビルなど有害動物、有害植物は無い
- 鹿、猪、タイワンリスなど駆除鳥獣が多い
- 散歩ができるコース道ができていない

目標について

- 活動のための連絡方法、安全管理、保険、道具などの基盤を確立する
- 標準地を設定する、全体を巡回するなど、フィールド状況を把握する
- 近隣の自治体向けにイベントを行う（自然観察会、野鳥観察会など）
- 小学校向けに題材を提案する（森の移り変わり、昆虫、水辺、など）
- 近隣企業向けに情報を提供する（CO₂吸収量、セラピー効果、など）
- 森に関する認証機関による評価を受け、八王子市に報告がされている

活動概要

①フィールド調査と②整備作業

- 標準地の笹刈りと観察により、もともとの植生を復活させ、植生に合わせたマップ作り（例：林末植物エリア・中低木エリア等）と整備計画を立てる。
- 樹木の密度を実測し目標密度ならびに間伐率・間伐本数を決める。間伐は数年計画とし、段階的に進める。間伐後の状況によって計画を随時見直す。
- 間伐作業は手鋸で行うが、前準備（危険な枯れ木の前処理など）は別途作業日を決めて動力（チェーンソー）を使用する場合もある。保険は個人責任。
- 湧水と水辺はまず観察できる程度までに除草により明るくする。作業は生物にダメージを与えない季節とする。その後、季節毎に観察調査を実施する。

③アクティビティ

- 初年度は以下を予定する。材料は間伐材など不要物を利用しフィールドからの持ち出しは最小限とする。
- 椎茸の植菌ホダ木作り、ホタル調査、シュロバッタ・蛇作り、昆虫トラップ調査、森林セラピー体験、つるを使ったリース作り、竹を使ったミニ門松作り、巣箱作りと設置、バードウォッチング、どんぐりクラフト……

5カ年計画

毎月の活動はメンバーの意見を聞きながら随時決めてゆく。

取り組み事項\年度	2011.4-12.3	2012.4-13.3	2013.4-14.3	2014.4-15.3	2015.4-16.3
1. CO ₂ 吸収	調査	試算			
2. 企業の環境対策		効果まとめ	アピール		
3. 生物多様性	調査				
4. 地域社会との関わり		イベント			
5. 環境教育			提案		
6. 森林療法		イベント	提案		
7. 森の資産価値評価				評価	報告
メンバー数〔人〕	20	40	60	80	100
必要経費〔万円〕	5	10	20	30	40

解説：メンバーはオリンパス従業員のみならず一般市民・市民、インストラクター等、制限は設けない。NPO法人化は2年度目以降に検討してゆく。必要経費の収入は助成金・寄付金を中心とする。支出は全体で共有して使用できる道具やアクティビティの講師謝礼を優先させる。

課題

- CO₂吸収の視点**
 - 樹木が成長できるように健全な状態に保つこと
- 企業の環境対策の視点**
 - 費用対効果、特に効果の面で判断できる材料を提供すること
- 生物多様性の視点**
 - 間伐を行い、笹を狩り、本来の生物多様な生態系に戻すこと
- 地域社会との関わりの視点**
 - 地元住民に利用してもらえるようにアピールしてゆくこと
- 環境教育の視点**
 - 地元の小学校に利用してもらえるようにアピールすること
- 森林療法の視点**
 - セラピーロード認定レベルを想定した整備を進めてゆくこと
- 森の資産価値評価の視点**
 - 資産価値評価要件をウォッチングしながら対応してゆくこと

課題分析

- CO₂吸収の視点**
 - 樹木が多過ぎるため成長ができない、共倒れするものが出てきている
- 企業の環境対策の視点**
 - 単に取り組んでいます、では費用は出せない、具体的な効果を見せる
- 生物多様性の視点**
 - 生物の視点で明るくするエリアと茂みを残すエリアのメリハリをつける
- 地域社会との関わりの視点**
 - 日常的に気軽に利用してもらい、人の目が増えれば、不法投棄が減る
- 環境教育の視点**
 - 出入口の整備、フィールドの目玉をわかりやすく解説、アピールする
- 森林療法の視点**
 - セラピーロード認定は難しいと思うが、これに匹敵した環境にする
- 森の資産価値評価の視点**
 - 評価要件がこれから議論されてゆくので、動向をウォッチングしてゆく

フィールド情報

- 八王子市久保山町2-1
- 広さ約3ha
- 八高線小宮駅徒歩15分